新型コロナによる世界的な経済の停滞から、いち早く抜け出した中国の工業生産の回復に伴い、強基調相場が続いたアルミスクラップ市況は、ここにきて天井感が出てきた。業界筋からは「市況の潮目が急速に変化。一気に先行きが見通しづらくなった」との声も聞かれるほどだ。原料市況に何が起きているのか、東名阪のアルミ原料市場の現状と展望をレポートする。

アルミスクラップ市況に天井感

東名阪 原料市場の現状と展望

中国塊下落で先安観台頭

車向け半導体不足の影響懸念

関東地区

先安観が台頭

原料市況の高騰から一転、先安観が台頭してきた。背景に中国塊（二次合金）価格の反落と、半導体不足による自動車メーカーの減産がある。現時点で原料需給は大きく緩んでいないものの、一部原料問屋ではアルミ二次合金メーカーの買値引き下げがすでに意識されている。

昨年までの中国塊価格の上伸は、国内合金メーカーが需要家渡し価格を決める交渉において、販価引き上げの切り札となっていた。また、アルミスクラップ価格が高騰していたこともあり、合金価格も上昇基調が続いた。しかし、中国塊価格の下落が端緒となり、原料市況の上げ足が鈍ってきた。

原料市況の変化にともない、二次合金市況にも先行き不透明感が生じている。「合金価格が停滞すれば、合金メーカーは原料買値の調整下げで、採算確保に向かうだろう」（原料問屋筋）と、原料市況が目先、急反発する見込みは薄そうだ。

自動車メーカーの減産による、合金需要への影響の全貌はまだ明らかとなっていない。「これからジワリと出てきそう」（合金筋）との見方もある。需要が大きく下振れすることになれば「原料需要減に伴って弱基調になるのではないか」（原料問屋筋）と、市中では懸念が高まる。

中部地区

中国産合金安が影響

アルミ原料市況を変化させた要因の一つに、過熱化したアルミ原料相場の反落を警戒した原料問屋が手持ち在庫を売りに出したことがある。今年に入り、合金筋への入荷が改善。合金筋は昨年末まで断続的に買値を引き上げていたが、今月以降は据え置いている。

原料相場は同値圏で推移するものの、先安感が必至な情勢だ。昨秋発生した国内半導体メーカーの火災により、自動車向け半導体の供給に不安が生じたことを帯びつつある。

また、中国の合金メーカーの過剰生産が原料安に追い打ちをかけそうだ。「昨年末あたりから、中国における工業生産が鈍ってきたためか、同国における二次合金地金の市中在庫が急増。世界的に地金需給が緩和しているもよう」（同）。別の業界筋からは「影響で大手自動車関連メーカーが今春入着予定で契約した同国産合金価格は、直近の高値比で50円程度下回る。足元の国産合金価格と比較しても、大きく割り込んでいる」と聞かれ、今後の国産合金市況の伸び余地が限られる可能性が出てきた。ゆえに原料市況の先行きに不安感が残る。

関西地区

市況の停滞は一時的との見方も

昨年末まで急騰していたアルミスクラップ市況は今年に入り、これまでの上昇基調が止まった。トーンダウンの最大の要因は他地区で、自動車関連メーカーが減産を打ち出したためだ。合金筋はダイカストメーカーなど地金ユーザーに消費計画をヒアリングしている最中だが「自動車関連メーカーの中には減産を見越し、春先以降の二次合金の調達量を減らす方向にあるようだ」と、合金需要減に伴う、原料安が現実味と同様、これまで異常な高値だった中国塊価格の下落だ。

橋本健一郎橋本アルミ取締役は「アルミスクラップ市況は1月に入り、踊り場局面にある。その理由は中国塊の下落、半導体の不足、中国でのコロナ禍の拡大の3点だと見ている」と指摘する。

中国塊の下落は、2００人の感染を確認。中国全土では1月11日までで７００人超と報道されているなど、同国における新型コロナの再拡大も、日本国内の原料市況に少なからず影響しているものの旧正月前で需給が緩んでいるためだ。半導体不足は、半導体受託製造会社（ファウンドリー）が、新型コロナの影響で昨年4～6月に自動車の生産減を受け、車載用半導体の生産を大幅に縮小。スマートフォンやパソコン向けに生産をシフトしたためだ。車載用半導体の在庫は昨年末にの下落、半導体の不足、尽きかけて、この問題が表面化した。

また、今年に入り河北省・石家荘市で約5０００人の感染を確認。

原料市況に天井感が出始めたアルミスクラップ

（奥田　啓太・齊藤　直人・白木　毅俊）